

プレカット ニュース

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会

東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階

TEL 03 (3580) 3215 FAX 03 (3580) 3226

<http://www.precut-kyokai.com>

プレカットCAD技術者研修開催される

— 東京、大阪、名古屋3会場で129名受講 —

当協会では、平成24年度プレカットCAD技術者研修を大阪(2月25日(月)、26日(火)受講者数：41名)、東京(3月4日(月)、5日(火)受講者数：56名)、名古屋(3月7日(木)、8日(金)受講者数：32名)の3会場で開催しました。

この研修は、現在、軸組工法住宅の9割は、プレカット加工された主要構造部材を使用しており、消費者が求める安全・安心の家づくりには、プレカット工場の係わりは極めて密接になっていることから、CADオペレーターが工務店等の設計担当者と技術的な議論や提案ができるように、木造住宅全般に係わる技術力の向上を図ることを目的としています。また、当協会では、昨年、プレカットCAD技術者基準を制定し、これに基づくプレカットCAD技術者認定を創設することにしてしています。今回の研修の内容は、プレカットCAD技術者認定2級に対応するものとなりました。

東京会場においては、研修開始にあたり、櫻井会長が出席し、「本年の住宅着工数はデフレ脱却に向けて、需要は堅調に推移し、プレカット工場の稼働率も高い水準が維持されると予想される。受講者の皆様には、このような中で、プレカット加工の技術的インセンティブを高め、優れた倫理観を併せ持つ技術者として研修成果が十分に発揮され、軸組住宅生産の担い手として活躍されることを期待する。」旨の挨拶と激励のことばがありました。

今回の研修の講師は、CADオペレーターに求める

知識範囲：野辺公一氏、木質材料、木質構造：小野泰氏、プレカット伏図の作成等：村上淳史氏、CADオペレーターと瑕疵：田口隆一氏で講義とともに演習を行いより実践的な知識の習得に努めました。また、講義終了後、受講者の方々に講義内容の理解度を確かめ、考査を行い、問題の解説を行いました。

最後に、受講者全員にアンケート調査を実施したところ、「この研修は大変参考になった」、「参考になった」の回答が併せて98%あり、また、定期的(1年、3年)に研修を受講したいとする回答も92%を占めるなど、研修の成果は大いに期待されるものになっています。

なお、現在、多数の受講希望者がいることから、当協会では、平成25年度においても同様の研修を開催する予定にしています。



演習問題を解説する 講師 小野泰氏

平成25年度事業計画及び収支予算が承認される

— プレカット協会平成24年度第2回理事会 —

当協会は、3月18日(月)に平成24年度第2回理事会を三会堂ビル2階S会議室において開催しました。理事会の冒頭、櫻井会長から、「2年前の東日本大震災の復興が進む中で、歴史的な円高や株価の下落など、デフレの様相が深くなっていたが、本年1月に不況脱却のための大型補正予算等の対策が進められ、その効果による景気回復が期待される状況になっている。昨年の新設住宅着工戸数は、年後半に政策の後押し効果もあって、88万3千戸と前年に比べると+5.8%増加した。このような中で、プレカット加工業においては、地域的な差異はあるものの、工場の稼働率が最近にはなく高い状況で推移したが、一方においては、競争条件の激化により、加工単価は低迷を続け厳しい状況が続くことが懸念される。プレカット加工業は厳しい環境の中にいるが、会員に対する技術支援、業務支援等を通して消費者から求められる住宅の安全・安心に応えられるプレカット部材の供給に努めて行きたい。」旨の挨拶がありました。

議事においては、まず、議題1「平成25年度事業計画(案)及び平成25年度収支予算(案)について」が承認され、引き続き、議題2その他で、事務局より「平成24年度プレカットCAD技術者研修の実施状況」について説明があり了承され、閉会しました。

なお、今回の理事会で承認された「平成25年度事業計画及び平成25年度収支予算」は、6月12日(月)に開催される第3回定時社員総会(場所:スクワール麴町)に報告されます。

「新たな木材利用」事例発表会開催される

— 【大型構造物への地域材利用の拡大】 —

社団法人全国木材組合連合会と木材利用推進中央協議会は共催で、2月14日(木)に東京都江東区新木場の木材会館において、第4回「新たな木材利用」事例発表会を開催しました。この発表会には、木材関係者はもとより、木造建築物の設計、施工の関係者も多数参加し、新たな木材利用についての関心の高さをうかがわせるものになりました。

事例発表は、2部に分かれて行われました。このうち、第1部「街づくり・くらしと木材利用」では、大型の商業ビルへの利用、木造の中層集合住宅への利用、都市ビルの内装材への利用、スギ材の家具利用等6事例について設計のコンセプト、木材利用の技術的課題、利用者の評価等について発表がありました。

また、第2部「大型構造物と地域材利用」では、独立行政法人森林総合研究所構造利用研究領域チーム長 軽部正彦氏から、大型木造建築物における構造部材の使用について6件の事例調査の結果が発表されました。この中で、プロジェクトを進めるためには、大規模木造の構造解析ができる人がいること、オリジナル構法ではなく在来構法を選択するとコストダウンになること、建設ばかりでなく維持管理を含めたトータルな経済性が重要ということがプロジェクト成功のカギであると発表された。

今後、プレカット加工業は、このような大規模木造建築物用資材の加工を受注するに当たり、構造設計、資材選択等での関わりは大きくなっていくものと思われます。

今回の発表の成果は、今後の新たな木材利用の方向付けになることが期待されています。

平成24年 協会会員工場基礎調査結果について(第1回)

— プレカット用資材の材種別使用状況 —

平成24年に協会会員工場で使用した資材について、国産材、輸入材別にグリーン材、KD材、集成材等の使用割合を集計、分析しました。(調査工場数:40工場)

国産材

使用割合 (%)	グリーン材	KD材	集成材等
0～10	28	0	19
11～20	5	6	4
21～30	4	5	3
31～40	1	4	1
41～50	0	1	2
51～60	1	2	2
61～70	1	6	5
71～80	0	3	2
81～90	0	6	1
91～100	0	6	1
平均使用率(%)	13.0	58.4	28.8
中央値(%)	10	70	15
(平均使用率(%))	(16.4)	(54.4)	(29.2)
(中央値(%))	(15)	(60)	(15)

輸入材

使用割合 (%)	グリーン材	KD材	集成材等
0～10	31	6	4
11～20	7	5	4
21～30	1	7	5
31～40	0	3	5
41～50	0	4	3
51～60	0	6	5
61～70	0	2	6
71～80	1	2	3
81～90	0	3	4
91～100	0	2	1
平均使用率(%)	8.0	43.4	48.7
中央値(%)	5	35	50
(平均使用率(%))	(7.8)	(43.9)	(48.3)
(中央値(%))	(5)	(40)	(45)

◇簡単なコメント

国産材においては、グリーン材の平均使用率は前回調査時(平成23年12月)に比べて、3.6ポイント低下し、中央値も10%になった。一方、KD材の平均使用率は、4.0ポイント上昇し中央値は70%になっている。これは、地域型住宅ブランド化事業をはじめ長期優良住宅の普及促進の中で、国産材の利用がKD材に大きくシフトしつつあることがうかがえる。なお、国産材集成材においては明らかな変化はみられなかった。

また、輸入材においては、グリーン材、集成材ともに平均使用率が僅か上昇し、KD材においては僅かな低下であったが、国産材の様なグリーン材とKD材との間の大幅な変化はみられなかった。

プレカット業況調査(平成25年2月期)

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会調べ(回答率:53%)

設 問	回答率(%)			DI	前回 DI
	(1)	(2)	(3)		
1-1 今月の受注額は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	9	37	54	-45	+32
1-2 3ヶ月後の受注額をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	60	31	9	+51	-25
2-1 貴社の坪あたり平均総加工単価はいくらですか。	答:6,100円(対前回調査-80円)				
3-1 今月の製品加工単価は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	0	86	14	-14	0
3-2 3ヶ月後の製品加工単価をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	9	77	14	-5	-7
4-1 今月の資材(製品)入手状況は如何ですか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	0	23	77	-77	-35
4-2 3ヶ月後の資材(製品)入手状況をどう予測しますか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	0	20	80	-80	-42
5-1 今月の収益は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)良い(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪い(5%以上の減)	6	25	69	-63	+11
5-2 3ヶ月後の収益をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	31	18	51	-20	-42

* DI = (1)の% - (3)の%、+の数値が大きいほど好況、-の数値が大きいほど不況。

* 前回調査:平成24年11月

◇簡単なコメント

2月の各地のプレカット工場の受注額、収益のDIは、ともにマイナスに転じた。また、3ヶ月後の受注額はプラスに転じると予測されているが、今後、3ヶ月後においても資材の入手状況は極めて厳しい予測がされており、その結果、収益の回復を遅らせているとみられる。資材の入手環境の好転が望まれる。

1. 受注額のDIは-45で前回調査時(平成24年11月期)と比べて悪化しており、前回調査時の3ヶ月後の受注額の予測よりも下回った。また、3ヶ月後の予測は一転して+51となっており、春の受注量の増加が期待されている。
2. 3ヶ月前と比較した製品加工単価のDIは-14になった。これを反映してか、平均総加工単価は6,100円で3ヶ月前に比べて-80円と低下した。また、3ヶ月後の製品加工単価のDIも-5で、加工単価回復の道程は長そうである。
3. 資材の入手状況のDIは-77と前回調査時に比べて大変厳しくなっている。また、3ヶ月後においても-80と予測されており、しばらくはこの状況が続く懸念がある。
4. 3ヶ月前と比べた収益のDIは-63と厳しくなっており、3ヶ月後の予測も-20であるが、需要期を迎え収益の回復が期待される。